

## 【いきいき茨城ゆめ国体 2019】

西岡 真紀

7位入賞(2:09:06)

皇后杯7位入賞

私にとって3度目となる国体でした。

トライアスロン競技が正式種目となり初出場した、2016年岩手国体では66位。

初めて経験したエリートレースで、周りの雰囲気圧倒され、自分の弱さを痛感したレースでした。

リベンジを誓った昨年の2018年福井国体では16位。

この2年でたくさんの経験を積み挑んだレースでは、しっかり自分の走りができました。

そして、今回の2019年茨城国体で7位入賞。

自分が入賞できるなんて思いもしておらず、今でも実感がありません。

ただ一つ、トライアスロンを初めてからずっと変わらない、「楽しい!」と思う気持ち。それが今の自分を支えてくれていることは間違いありません。

### 【スイム】 21:51

コース的にアウトサイドからスタートする事が有利だと考え、前日のドローンでは38番を選択。しかし、みんな考えていることは同じで、周囲に並ぶのはスイムを得意とする都道府県の選手ばかり。スイムで飛び出せない私にとっては、激しいバトルになる事が予想され、前日から不安でいっぱいでした。

スタート後は予想が的中したので、焦らず集団の後方で追走。全体的にスピードが落ちていたので、私にとっては良い条件でスイムアップする事ができました。

### 【バイク】 1:08:35

苦手なバイク練習に特化し、どのレースでも対応できるように準備してきたバイク。しかし、トランジットでシューズが上手く履けず、もたもたしているうちに、後に第1バックとなる集団を逃してしまう。とにかく単独で前に追いつく事を考え粘ったが届かず。

トライアスロンは3種目だけではなかった。改めてエリートレースでの難しさを知り、同時に、自分の力不足を痛感したバイクでした。

### 【ラン】 37:15

順位よりもただひたすら前を追うことだけを考えスタートしたラン。

少し身体は重いと感じるものの、トップ集団からの 2 分差はキツイため、守らず最初から攻める。ランコースは 2.5 キロの周回コースなので、前との差もすぐわかり、何よりも力をくれた途切れることのない応援に支えられながら必死に走る。

順位はゴール後に教えてもらい、初めて自分が 7 位に入賞した事を知りました。

嬉しい気持ちの反面、もっと上位を目指せたと思う複雑な気持ちがありましたが、たくさんの方々に祝福していただき、次にレースを控えている男子選手にも良いバトンを繋ぐ事が出来たのは良かったです。

和歌山県にはトライアスロンのチームなどはなく、みんなで考えながら伸び伸びと楽しく練習しています。

私は現在、職場が大阪のため、頻繁に和歌山で練習する事は出来ませんが、帰省した際には一声かけると、とにかく多くの仲間が集まってくれます。

国体でも監督だけでなく、有志でサポートとして帯同して下さる方がいたり、本当に日々支えられている事が実感できる、とにかく暖かい町です。

3 年前、何もわからずみんなで一から始めたトライアスロン競技の国体。

今回、個人だけでなく、皇后杯で 7 位入賞を成し遂げる事が出来たのも、本当に WTU の方々を始め、和歌山県の仲間のおかげです。

大好きな和歌山県のためにできた最初の恩返し。そして今後は、この経験を活かし、もっと和歌山県でトライアスロンを盛り上げていけるよう、またみんなで頑張っていきたいと思えます。

最後となりましたが、大会に向け尽力下さった方々やいつも応援して下さるに心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。